

特定非営利活動法人 日本免疫学会
平成 28 年前期 **Tadamitsu Kishimoto International Travel Award**
研究発表報告書

申請者氏名	谷村奈津子	会員番号	23073
申請者の 所属・職名	東京大学医科学研究所 特任研究員		
出席会議名	国際免疫学会		
発表論文 タイトル	Roles of MD-1 in inflammatory disorders		

実施結果:

2016年8月21日より行われました国際免疫学会に参加、8月25日に発表してまいりました。実は妊娠中であり、一時は参加を辞すことも考えましたが、幸いにも体調も安定しており、また助成の決定もいただいておりますので、せっかくのチャンスを最大限に活かすべく参加してまいりました。

B細胞や樹状細胞、マクロファージに発現する非典型 Toll 様受容体である RP105 と会合する分泌型たんぱく質 MD-1 について、その自己由来成分認識と炎症性疾患における生体恒常性維持への役割を検討した結果を報告いたしました。これまで機能もシグナル伝達についても未知であることの多い RP105 及び MD-1 ですが、最近の我々の研究成果として自己由来脂質の認識にかかわり、生体内の脂質均衡が乱れた際に機能発揮することを見出しつつあります。

ミニオーラルに採択され、5分と短時間ではありましたが、口頭発表の機会を得ることもできました。参加したセッションは自然免疫全体を対象とするものであり、外来性のリガンドが炎症を惹起するメカニズムに関する報告が多くを占め、いわゆる内因性リガンドに関する発表は私のほかにありませんでした。短い時間の発表ではありましたが、内因性リガンドの機能を明らかにするにおいても、外因性リガンドとのかかわりについても視野に入れつつ検討を進めていく大切さに気付かされる質問を投げかけていただくこともできました。

加えて、参加させていただきましたセッションの座長を務められた2人がともに女性であったこと、セッション内の発表者の半数以上が女性であったことがとても印象的でした。日本の学会でも女性が増えてきていますが、女性のほうが多いというシチュエーションには国内では残念ながらまだ遭遇したことがありません。これからの国内でもこのように女性が多く発表する活気ある会に参加できるよう、今後も研究に励み、成果を新しい自然免疫の展開へと発展させたいと思っております。

最後に このような貴重な機会を与えていただきましたことに深く感謝して、報告とさせていただきますと存じます。